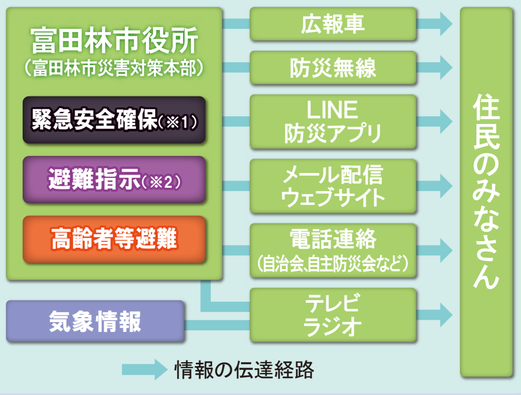
取り出しやすい場所に保管しておきましょう。 **保存版**

富田林市 内水はん濫ハザードマップ

あなたとあなたの大切な家族を守るために

避難情報の伝達経路と、とるべき行動

富田林市では、災害発生のおそれのあるときや災害の発生が確実なときには、『災害対策本部』を設置して対応します。また、災害の危険性が高まり、避難が必要となる場合には避難情報を発表します。どの情報かを判断し、適切な行動をとってください。



警戒レベル	避難情報等（富田林市が発令）	防災気象情報（気象庁が発表）	状況	住民がとるべき行動
5	緊急安全確保 ※1	大雨特別警報	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!
警戒レベル4までに必ず避難!				
4	避難指示 ※2	土砂災害警戒情報	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難
3	高齢者等避難	大雨警報 洪水警報	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 ※3
2		大雨・洪水・高潮注意報	気象状況悪化	自らの避難行動を確認
1		早期注意情報	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める

※1 災害の発生を把握できていない場合もあるため、警戒レベル5「緊急安全確保」は必ず発令されるものではありませんのでご注意ください。
※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令します。
※3 高齢者等以外の方も危険を感じたら自主的に避難してください。

発行 富田林市 産業部 下水道課 〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1-1 ☎0721-25-1000（代表）
令和6(2024)年3月作成

インターネットによる防災情報の入手先

パソコンや携帯電話を使って、雨量・河川水位等の防災情報を確認しましょう。

富田林市ウェブサイト	https://www.city.tondabayashi.lg.jp/
気象庁　キキクル（危険度分布）	https://www.jma.go.jp/bosai/risk/
おおさか防災ネット	https://www.osaka-bousai.net/
大阪管区気象台	https://www.jma-net.go.jp/osaka/

防災情報のメール配信サービス

緊急速報メール（エリアメール）

緊急地震速報や、国や地方公共団体が配信する災害・避難情報などを、対象エリア内の携帯電話に一斉に配信するサービスです。
※詳細は各携帯電話会社のホームページ等をご覧ください。

とんだばやしメール

富田林市の安心・安全に関する情報や各種行政情報を、事前登録した携帯電話やパソコンにメール配信するサービスです。

登録方法 下記アドレスへ空メールを送信してください。
→本登録用のアドレスが返信されます。
tonda@emp.ikkr.jp

おおさか防災情報メール（おおさか防災ネット）

地域（市町村）別の防災情報を、事前登録した携帯電話にメール配信するサービスです。

登録方法 下記アドレスへ空メールを送信してください。
→本登録用のアドレスが返信されます。
touroku@osaka-bousai.net

▲登録は無料ですが、受信にかかる通信料は利用者負担となります。

緊急時の連絡先

機関名	電話番号
富田林市役所（災害対策本部）	0721-25-1000
・防災情報音声案内サービス 防災無線の放送内容を聞くことができます。	0800-805-5653
大阪南消防組合　富田林消防署	0721-23-0119
・病院案内専用ダイヤル 救急診療の当番病院の紹介を行っています。	072-958-0119
・救急安心センターおおさか 救急医療について相談ができます。	#7119 または 06-6582-7119
富田林警察署	0721-25-1234
大阪ガス（ガス漏れ専用電話）	0120-319-424
大阪ガス（お客様センター）	0120-394-817
関西電力送配電ダイヤル 電線・電柱などに関するお問い合わせ	0800-777-3081
NTT（電話の故障）	113 ※

※加入電話の事業者によりつながらない場合があります

防災アプリによる防災情報の入手

富田林市 公式LINE	富田林市 防災アプリ HAZARDON		NHK NHKニュース・防災		Yahoo！ 防災速報	ウェザーニュース	関西電力送配電 関西停電情報
	iPhone	Android	iPhone	Android			

※アプリの利用料は無料ですが、通信費用は各自のご負担となります。
※アプリによっては地域の設定が必要な場合がありますので、「富田林市」を登録してください。

災害時におけるX（旧Twitter）ハッシュタグの利用について

市ではX（旧Twitter）のハッシュタグを利用して、災害発生時（地震、大雨、台風、竜巻など）における被災状況等の収集を行っています。
市内の被災状況を「**#富田林市災害**」のハッシュタグを付けたポストを行っていただくことにより、災害対策本部において被災状況の情報収集を行います。災害が発生した際に、場所が特定できるような文章や写真の添付をしたポストをお願いいたします。
ポストいただくのは、どなたでも結構です。

詳しくはこちら➡ 富田林市　災害　X　検索

災害用伝言サービス

大災害発生時は、電話がつながりにくい状況が災害発生時～数日間続くことがあります。このような場合は、「災害用伝言ダイヤル」・「災害用伝言板サービス」・「災害用伝言板（web171）」が開設されます。

災害用伝言ダイヤル 「171」をダイヤルし、ガイダンスに従ってください

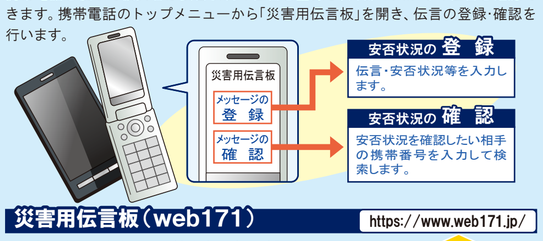
このサービスは、大規模な災害が発生した場合、「声の伝言板」（安否情報）の役割をする電話サービスです。被災地内とその他の地域の人々との間などで、伝言の登録・再生をすることができます。毎月1日・15日、正月三が日、および防災週間・防災とボランティア週間においてお試し利用ができます。

伝言の録音方法
171をダイヤル
1を押す　ガイダンスが流れます
被災地の方も、被災地以外の方も 被災地の方の電話番号を 市外局番 からダイヤル
録音

伝言の再生方法
171をダイヤル
2を押す
再生

災害用伝言板サービス

携帯電話を使って被災者は安否状況の伝言を登録し、外部の人がその伝言を確認できます。携帯電話のトップメニューから「災害用伝言板」を開き、伝言の登録・確認を行います。



災害用伝言板（web171） https://www.web171.jp/

インターネットを利用して被災者の安否確認を行う伝言板です。伝言情報の登録・閲覧が可能です。
上記へアクセスし、案内に従って操作してください

災害に備え家庭で備蓄をしておきましょう

いざというときに備えて、最低でも3日分、可能な限り7日間分を準備しましょう

食料
- □飲料水（1人1日3Lを目安）
- □非常食（缶詰・乾パンなど）
- □粉ミルクと哺乳瓶（赤ちゃんがいる場合）

救急・安全対策
- □常備薬（胃腸薬、かぜ薬など）
- □包帯、ガーゼ、ばんそうこう
- □傷薬、消毒薬
- □持病のある方の薬
- □ヘルメット　□おくすり手帳
- □防災ずきん

衣料など
- □衣類（厚手の物と薄い物）
- □下着類
- □タオル、毛布
- □手袋、軍手
- □寝袋
- □雨具

貴重品
- □現金（小銭）
- □預貯金通帳、印鑑
- □クレジットカード類
- □健康保険証
- □免許証など（身分を証明するもの）
- □権利証書
- □母子手帳
- □家族の写真

日用品など
- □ポリ袋（ビニール袋）
- □新聞紙
- □ろうそく、ライター
- □ナイフ、缶切り
- □ティッシュペーパー
- □懐中電灯
- □携帯ラジオ
- □予備の電池
- □ポータブルトイレ
- □ペット用品
- □携帯電話
- □筆記用具
- □洗面用具
- □メガネ
- □体温計
- □紙おむつ
- □マスク
- □消毒液
- □使い捨てカイロ
- □ハザードマップ

避難の心得

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。

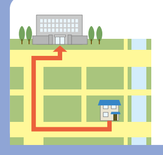
分散避難を考えましょう
右ページの避難行動判定フローを参考に、避難の必要性を判断し、どこに避難するか、事前に検討しましょう。

ペットとの同行避難を考えましょう
避難所のルールに従い、他の避難者の迷惑にならないよう注意し、ペットの備蓄品も日頃から用意しましょう。

状況により、すばやく避難しましょう
避難情報などが発表されていなくても、雨の状況などから判断し、自主的に避難しましょう。

集団で助け合おう
単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。

車での避難は注意しましょう
車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は注意しましょう。



安全なルートで避難
避難場所への経路は、川べりや地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。

持ち出し品は最小限に
非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。

避難施設では指示に従いましょう
避難施設に着いたら、係の人の指示に従い、住所・氏名を報告しましょう。

避難行動要支援者について

避難行動要支援者とは、災害発生時に自ら避難することが困難で、避難するためには支援が必要な人々のことです。一般に高齢者や障がい者などが該当します。地域で協力しあいながら、近所の高齢者、障がいのある方などの安否確認、避難施設への移動を支援しましょう。

高齢者・病人
- ●おぶって安全な場所まで避難する。
- ●複数の介助者で対応する。

肢体の不自由な方（車椅子）
- ●階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- ●介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難する。

目の不自由な方
- ●声をかけ情報を伝える。
- ●誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらい、半歩手前をゆっくり歩く。

耳の不自由な方
- ●話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- ●手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

知的障がいのある方
- ●一人でいる時に危険が迫った場合には、緊急に保護する。
- ●災害の状況や避難所等の位置を、短いことばや文字、絵、写真などを用いてわかりやすく説明し、必要に応じて誘導する。

精神障がいのある方
- ●災害の状況や避難所等の位置を伝え、必要に応じて無理のないやり方で誘導する。
- ●動揺している場合には、時間をとり気持ちが落ち着くよう支援する。

詳しくは「富田林市避難行動要支援者支援プラン」をご参照ください。

水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動は極力避けなければいけません。そのような場合は、避難所への移動（水平避難）だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階といった高い場所への移動（垂直避難）を行い救助を待つという判断も必要です。

危険な避難

避難所への避難（水平避難）

高所への避難（垂直避難）

避難時の感染症対策・心得

●避難所に入るとき
- ・避難所担当者による発熱等の確認完了後、職員の指示で順番に避難所へ入ってください。
- ・避難所内では、マスクを着用してください。マスクをお持ちでない場合は、受付に申し出てください。

●密を避ける
- ・避難所は限られたスペースですので、どうしても「密」が起こりやすいです。親戚や友人宅に避難することも検討してください。
- ・車中泊を行う場合は、エコノミークラス症候群や熱中症などに注意してください。

3密回避
- **密閉空間** …換気が悪い
  - ▶30分に1度は換気を行う。
- **密集場所** …多数が集まる
  - ▶避難者同士の距離を保つ。
- **密接場面** …間近で会話や発声
  - ▶近距離での会話や発声は最低限で。

●衛生・健康管理
- ・ふたのあるトイレは、ふたをしてから流してください。
- ・定期的に検温を行ってください。
- ・体調不良の場合は、避難所運営者に申し出てください。
- ・持ち出し品としてマスク・消毒液を準備しておきましょう。

●手洗い、咳エチケットの励行
- ・避難所内では必ずマスクを着用してください。マスクのない場合は、避難所運営者に申し出てください。また咳エチケットも併せてお願いします。
- ・こまめに手洗いを行い、食事前やトイレ後は必ず手洗い、手指消毒を行ってください。

大雨・洪水に関する注意報・警報について

次のような場合に、大阪管区気象台から「注意報」「警報」「特別警報」が発表されます。

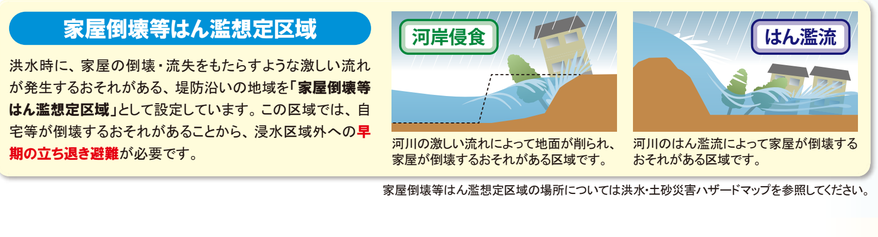
大雨・洪水注意報	大雨・洪水警報	大雨特別警報
災害が発生するおそれがある	*重大な災害が発生するおそれがある*	*「警報」よりもはるかに高い危険度*
大雨 大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。	大雨 大雨により、重大な浸水災害や重大な土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。	大雨 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨になると予想したときに発表。
洪水 大雨、長雨などにより、河川の増水やはん濫、堤防の損傷や決壊による災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。	洪水 大雨、長雨などにより、河川の増水やはん濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。	※「洪水」は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

●このほか、数年に一度の猛烈な雨が観測された場合には、気象台から、「記録的短時間大雨情報」が発表されます。この情報が発表された地域では、近くで災害の発生につながる事態が生じていることを意味しています。
●大雨などのときには、テレビやラジオなどで最新の注意報・警報・特別警報の発表状況を確認するようにしましょう。テレビ・ラジオの他には、NTTテレホンサービス「177」や気象庁ホームページ（http://www.jma.go.jp/）でも確認できます。
※富田林市に注意報・警報が発表される際の雨量基準値などについては、気象庁ホームページで知ることができます。

外水はん濫と内水はん濫

※**内水はん濫**については本ハザードマップをご覧ください。
※**外水はん濫**については別途、洪水・土砂災害ハザードマップをご覧ください。➡ 富田林市　洪水　検索

洪水には、川の堤防が壊れたり堤防から水が溢れたりして発生するはん濫（外水はん濫）と、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなることにより起こるはん濫（内水はん濫）があります。まずは、洪水の発生する仕組みを理解して、避難所まで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。



避難行動判定フローを確認しましょう

平時に確認

「避難行動判定フロー」を「ハザードマップ」とあわせて確認し、居住する地域の災害リスクや住宅の条件等を考慮したうえでとるべき避難行動や適切な避難先を確認しておきましょう。

避難行動判定フロー ― あなたがとるべき避難行動は？

ハザードマップ※で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。
※ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？
- いいえ → 色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市区町村からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください
- はい → 災害の危険があるので、**原則として、立ち退き避難（自宅の外に避難）が必要**です。

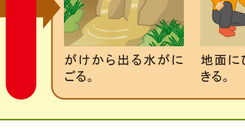
例外
- ■浸水の危険があっても、次のような場合は屋内安全確保（自宅に留まり安全確保をすること）も可能です。
  - ▶洪水により家屋が倒壊、又は、崩落してしまうおそれの高い区域の外側である。
  - ▶浸水する深さよりも高いところにいる。
  - ▶浸水しても水・食糧などの備えが十分にあり、水がひくまで我慢できる。
- ■土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり、安全確保をすることも可能です。

ご自身、または、一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？
- いいえ → 安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？
  - はい → **警戒レベル4（避難指示）**が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう。（日頃から相談しておきましょう）
  - いいえ → **警戒レベル4（避難指示）**が出たら、市が指定している**避難所に避難**しましょう。
- はい → 安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？
  - はい → **警戒レベル3（高齢者等避難）**が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう。（日頃から相談しておきましょう）
  - いいえ → **警戒レベル3（高齢者等避難）**が出たら、市が指定している**避難所に避難**しましょう。

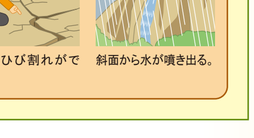
事象により開設する避難所は異なります。

家屋倒壊等はん濫想定区域

洪水時に、家屋の倒壊・流失をもたらすような激しい流れが発生するおそれがある、堤防沿いの地域を「**家屋倒壊等はん濫想定区域**」として設定しています。この区域では、自宅等が倒壊するおそれがあることから、浸水区域外への**早期の立ち退き避難**が必要です。



河川の激しい流れによって地面が削られ、家屋が倒壊するおそれがある区域です。



河川のはん濫流によって家屋が倒壊するおそれがある区域です。

家屋倒壊等はん濫想定区域の場所については洪水・土砂災害ハザードマップを参照してください。

雨の強さと降り方（1時間雨量）

やや強い雨（10ミリ～20ミリ未満）

地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら警戒が必要です。

強い雨（20ミリ～30ミリ未満）

土砂降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。小河川ならはん濫、また、がけ崩れの心配もあります。

激しい雨（30ミリ～50ミリ未満）

激しい雨。山崩れ、がけ崩れが起こりやすくなります。道路規制も行われます。避難の準備を。

非常に激しい雨（50ミリ～80ミリ未満）

滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。屋内で寝ている人の半数くらいが気づくほどの激しい雨です。

猛烈な雨（80ミリ以上）

息苦しくなるような圧迫感があります。大雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要です。

※気象庁資料参照

土砂災害の種類と前兆現象

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ土石流やがけ崩れ、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。また、土砂災害には前兆現象があります。前兆現象を確認したら速やかに避難するとともに、富田林市へご連絡ください。

こんな前ぶれに注意して！

がけ崩れ

地面にしみ込んだ雨水などが土の抵抗力を弱め、弱くなった急ながけ地や斜面が突然崩れ落ちることです。地震によって起こることもあります。突発的に起こり、短時間のうちに崩れたり、落石があるので、逃げ遅れた場合、死者が出る割合が高くなります。

- 斜面にひび割れができる。
- わき水の量が増える。
- がけに亀裂が入る。がけから小石が落ちてくる。

土石流

谷や斜面に溜まった土砂が、大雨による水と一緒になって、一気に流れ出してくるものです。破壊力が大きく、速度も速いので、大きな被害をもたらします。「山津波」とも呼ばれます。

- 雨が降り続いているのに、川の水位が下がる。
- 地鳴りの音が聞こえてくる。
- 川が濁ったり、流木がまざりはじめる。

地すべり

地中の粘土層などすべりやすい面にしみ込んだ雨水などの影響で、山腹がゆっくりと動き出す現象です。比較的緩やかな斜面でも起こります。一度に広い範囲が動くため、住宅や道路、耕地などに大きな被害をもたらします。

- がけから出る水がにごる。
- 地面にひび割れができる。
- 斜面から水が噴き出る。

土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報は、大雨警報の発表中に、土砂災害発生の危険度が高まったとき、大阪府と大阪管区気象台が共同で作成・発表する情報です。

土砂災害警戒情報は、市町村長が避難情報を発令する際の判断材料となる重要な情報です。土砂災害警戒情報が発表されたら、土砂災害に厳重に警戒し、自主避難の判断を行ってください。また、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、その他の防災情報や土砂災害の前兆現象などにも十分注意しながら、必要であれば避難行動をとってください。